# 読者のページ

## 仕事とラグビー

民生局　三上章彦

今の職場へ来て三年目。国民健康保険の保険料収納率をあげることが目下の急務です。国民保険の加入者は高額所得者ばかりではなく、また保険料の高額感も相俟って全体の収納率が低下傾向にあります。それをなんとかしようと現在さまざまな対策を打ち出して、その効果を測っている状況です。しかし収納率は、ラグビーボールのバウンドように、どちらに変化するのか分かりません。

ラグビーは縦百メートル、横六十九メートルのグラウンドに三十人の男たちが一つのボールを追いかけるスポーツです。

フォワードは縁の下の力持ち。泥まみれになり踏みつけられながらモール、ラックを連取して、生きたボールをバックに供給、フォローに走る。やっぱりラグビーをやるならフォワードがいい（自分のポジションだからというわけではないが）。

そして、ラグビーで勝つためには、当たり負けないことと、ボールを持ったら早くパスをすることが必要です。しかし何より大切なことは、精神を集中するということなのです。試合前のミーティングでも「今日のゲームに勝つ」「今日は自分たちの最高のラグビーをする」という意思一致をはかることが最も重要です（ワンフォアオール、オールフォアワン）。

職場という一つの組織体を動かして行くにもチームワークが必要となります。個々人は優れたものを持っていても、それぞれがバラバラの方向を向いていてはいい試合はできないし、それは仕事でも同じです。いつもフォワードの気構えを持ち、国民健康保険の収納率を〇・〇一%でもあげられるよう、縁の下の力持ちになれたらと思っています。今の職場は自分にとっての国立競技場、今日一日の仕事は早明戦。

目標を定め、後輩を育てながら組織を動かし、間断なく「仕事をする空間」を作って行かなければならないと思います。

でも、早くノーサイドのホイッスルがならないかなぁ。収納率が何パーセントになればノーサイドになるのでしょうか。まだしばらくはなりそうにない。体がバラバラになりそうですが、みんな頑張っているので、自分だけ休むわけにも行きません。

よし、やるぞ！

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「行政研究」への投稿も歓迎します。二〇〇字詰五〇枚以内。都市科学研究室まで（電話六七一―二〇二九）。

この「読者のページ」へもご投稿ください。市政、都市問題、自治体問題等、題材は自由。一〇〇〇字以内。

## 〈あとがき〉

急ピッチで増加を続ける自動車交通に依存する社会のあり方について、これまで主として交通事故の増大や道路建設の拡大の是非、環境の破壊、エネルギー消費の効率などの観点から問題が論議されてきた。

こうした自動車をめぐるさまざまな問題を解決するためには、端的にいって車の数を減らすことが最も簡単かつ有効な方法なのだろうが、ことはそれほど単純には行くまい。自動車は現代の市民の生活様式に深く入り込みすぎているからである。

直接車を利用していない人でも、食料品や衣料品など、日常使うさまざまな品物は車を使って運ばれてくるのである。しかも宅配便の普及をはじめとして、経済のサービス化、多様化はますます進み、余暇を重視する生活スタイルへの変化など、窪田陽一氏の言われる「時間距離と空間距離の効率的圧縮」を実現し、「移動そのものが目的化」する車の利用は、今後ますます多くなって行くものと思われる。

そこで今回は、車社会の問題をさまざまな角度から取り上げて特集を組んでみた。ユーザーの立場からみた車社会の問題点や第二次交通戦争といわれる現状の報告、さらに自動車を作る企業の立場からは技術革新によるこれからの車社会の姿を提案していただいた。

こうした中で明らかになったことは、急激な車の増加に社会が適応できないまま事態が進行し、完全に「クルマ社会」に突入してしまったことである。そこには車社会として必要な仕組みも約束も作られないままにモータリゼーションが進んでしまったということだ。

横浜の車は、八八年、ついに百万台を突破した。道路の渋滞は日常茶飯事である。しかし一方、通勤地獄という言葉に象徴される鉄道の混雑など、市民生活の負担も相変わらずなのである。交通のあり方は都市のおかれている事情によってさまざまに異なる。市民、企業、行政の知恵を結集して、大都市における車社会の姿やあり方を変えて行くことが必要だろう。

〈伊藤　孝〉